

日本の歯科医療への提言

日吉歯科診療所30年の臨床から見てきたもの

早いもので、私が大学を卒業してから40年以上の時間が経過し、現在地に日吉歯科診療所を開設してから30年が過ぎた。日吉歯科診療所を開設後の30年間は地域医療に徹した。しかしながら、地域住民の口腔の健康を向上させその結果を示すためには、それまでの日本の歯科医療観を根底から変える作業が必要であり、私自身はもちろん、スタッフや患者自身も歯科医療の本来の目的を見つめ直す必要があった。

しだいに、治療重視の視点から、「一生自分の歯で食べる」ことを可能とする歯科医療システムの構築に考え方がシフトし、そのための考え方やノウハウを北欧や米国から貪欲に吸収した上で、日本の事情にあわせて日吉歯科の臨床を作り上げていった。そのような臨床を積み重ねてゆくに従い重要さを増したのが、行った歯科医療の予後をどのように評価するかということであった。

そのための作業として、日吉歯科診療所では来院した患者全ての患者データを丹念にとり続けることをルーティンワークとしてきたが、そのような背景で得られた長期にわたるメンテナンス患者データから、予後の評価に関して一定の成果が得られたことは幸いなことであった。しかしながら、歯科医療にメンテナンスという概念が全くなかった時代において、メンテナンスの価値を理解し、定期的なメンテナンスを実践する患者を育ててゆく過程においては悪戦苦闘の連続でもあった。

歯科医療にもイノベーションが必要である。しかし、日本の歯科医療におけるイノベーションは治療技術や材料の進歩だけを指すのではなく、患者の健康を守るため、つまり予後の評価を向上させるための臨床における歯科医療システムの構築そのものがイノベートされなければならないと考える。このような変革は、最先端の技術や材料を臨床に導入する以上に難しく、行政のバックアップの無い現状ではより強い信念と高い臨床能力が必要とされる。

歯科医療を高い次元で見据え、歯科医療本来の持つ使命を果たすために、今後歯科医療がどのようにイノベートされるべきなのか、私の日吉歯科診療所における30年の臨床データから見てきた未来像を総括したいと考えている。

なお、私は契約の残る一部の講演と私が主宰している「オーラルフィジシャン育成セミナー」関連の講演をのぞいた対外的な講演活動は今回の講演で一区切りをつけたいと考えている。そのような意味で、今回の講演は私のこれまでの仕事の集大成として位置づけ、準備する予定である。



くま がい たかし
熊谷 崇先生

略 歴

医療法人社団 日吉歯科診療所 院長

1968年 日本大学歯学部卒業

1971年 神奈川県横浜市港北区にて開業

1980年 山形県酒田市日吉町にて移転開業

1999年 スウェーデンマルメ大学歯学部名誉博士号

2006年 日本大学客員教授

非常勤講師：新潟大学歯学部、東北大学歯学部、九州歯科大学、九州大学歯学部、鶴見大学歯学部

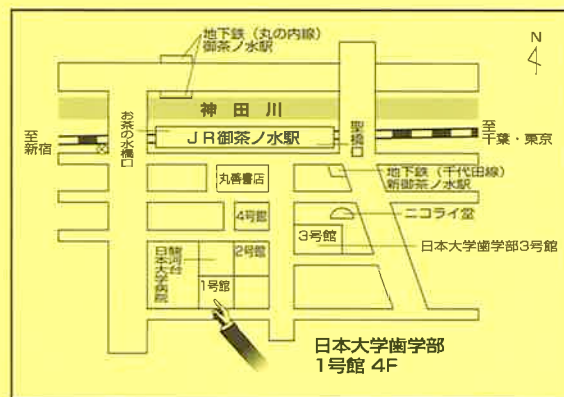
- 日 時／平成23年9月11日(日) 12:30～16:30 (正午受付開始)
- 会 場／日本大学歯学部 大学院大講堂 (1号館 4F)
- 受 講 料／日大歯学部同窓会会員……………無 料
(当日徴収) 日本大学歯学部学生及び教職員 (専門学校含) ……無 料
他歯科大学学生・大学院生……………無 料
一般 (上記の方以外) ……………5,000円
- 定 員／先着200名
- 申込方法／事前にFAX又はE-mailにてお申し込み下さい。
FAX 03-3294-2800 E-mail: aa-nusd-gakujutsu@sakura.email.ne.jp
(日大歯学・松戸歯学・一般・学生を明記して下さい。)

お問い合わせ先

日本大学歯学部同窓会

〒101-8310 東京都千代田区神田駿河台1-8-13日本大学歯学部1号館 (大学院) 1F

TEL.03-3294-2787 FAX.03-3294-2800



交通機関

JR中央線、総武線：お茶ノ水駅下車 徒歩2分
地下鉄千代田線：新お茶ノ水駅下車 徒歩2分
地下鉄丸の内線：お茶ノ水駅下車 徒歩5分

“日本の歯科医療への提言 日吉歯科診療所30年の臨床から見てきたもの”を受講申込いたします。

ふりがな
氏 名

TEL

FAX

※定員オーバーの場合には、その旨ご連絡申し上げます。(○印をして下さい。)

☐	日本大学歯学部同窓会会員 (☐ 回・推薦・特別)
☐	日本大学歯学部学生及び教職員 (専門学校含)
☐	他歯科大学学生・大学院生
☐	一般 (上記の方以外)

※2名以上で受講される際は全員のお名前をご記入ください。
準備上キャンセルされる際は必ずご連絡下さい。